



アジアの伝統芸能 第五回



白蛇伝の世界 (三)

川劇の特殊技法

〔質問〕

許仙を演じている陶長進さんは、
女性なのでしょいか？

また、なぜあんなに高い声で歌う
のでしょうか？



許仙を演じる陶長進さん

中国伝統演劇の表現技法(五) 假嗓

中国の伝統演劇では、前回紹介した**臉譜**（くまどり）や**髯口**（ひげ）のほかにも、発声法でも年齢層の違いが表現される。中高年の役柄には地声（**真嗓**）、若い男女の役柄には裏声（**假嗓**）が使われる。

許仙を演じている陶長進さんは男性だが、若い男性役（**小生**）のため**假嗓**が使われている。



許仙を演じる陶長進さん



川劇「白蛇伝」第五場 端陽驚変

蛤蟆の精に惑わされた許仙は、白蛇に雄黄酒を飲むようにと迫る。

許仙の子供を身ごもっていた白蛇は、夫の疑念を晴らすため、蛇にとっては猛毒の雄黄酒を口にする。





川劇「白蛇伝」第五場 端陽驚変(中) (05:44)

中国伝統演劇の表現技法(六) 僵尸

中国の伝統演劇には、登場人物の心情を表現する多くの所作がある。

次の場では、白蛇の本性を見た許仙の驚きの心情を**甩髪**（しゅっぱつ、冠を飛ばし、頭を回して髪の毛をふりほどく所作）、恐怖のあまり人事不省になるようすを**僵尸**（きょうし、正面を向いたまま、背を後ろに丸め、倒れる所作）によって表現している。



甩髪



僵尸

川劇「白蛇伝」第五場 端陽驚変

雄黄酒を口にしたりした白蛇は、苦しみのあまり本性を現してしまふ。

大蛇と化した妻の姿を目にした許仙は、恐怖のあまり人事不省となる。



川劇「白蛇伝」第五場 端陽驚変(下) (06:35)

中国伝統演劇の役柄

中国の伝統演劇では、**行当**(役柄)は男女・年齢・文武・道化などで細分化され、分業化されている。

『白蛇伝』の後半は立ち回りが多くなるため、白蛇役は**正旦**の古小琴から**武旦**の楊楠華に交替する。



楊楠華



古小琴



第六場では、三仙島へ仙薬を盗りに行った白蛇が、雄黄の波に襲われる場面が登場する。

このような水や風などの流れを、あなたならどのような方法で表現するか。

中国伝統演劇の表現技法(七)水旗

中国の伝統演劇では、吹きすさぶ風や押し寄せる水を表現する際、**風旗**や**水旗**と呼ばれる旗が使われる。**風旗**には黒、**水旗**には白の旗が使われ、雲牌と同じように歌や舞にあわせて動的に表現される。

第六場では、白蛇を襲う雄黄の波を表現するため、水旗には雄黄色の旗が使われている。



川劇「白蛇伝」第六場 仙山盗草

白蛇は人事不省となった許仙を救うため、起死回生の仙薬である靈芝仙草を取りに三仙島へ向かう。

島を守る鹿や鶴の精が仕掛けた雄黄の陣によって、白蛇はあやうく命を落としそうになる。しかし、その一途さに心打たれた南極仙翁に救われ、仙草を持って許仙のもとに帰ることを許される。



川劇「白蛇伝」 第六場 仙山盗草 (7:49)

川劇「白蛇伝」第七場 許仙迷魂

白蛇が三仙島から持ち帰った靈芝仙草のおかげで、許仙は一命を取り留める。

しかし、妻への疑念は消えない。そんな許仙の前に、如来に遣わされた法海が現れる。法海は迷魂傘を使って許仙に魔法をかけ、鎮江にある金山寺へと連れ去る。



第七場

許きよ仙せん迷めい魂こん

(法海、許仙を惑わす)



杭州

杭州から鎮江の金山寺へ



鎮江

杭州

杭州から鎮江の金山寺へ



金山寺(江蘇省鎮江市)

川劇「白蛇伝」第八場 水漫金山(上)

許仙を取り戻すため、白蛇は水族(水中に住む生物の精たち)を率いて金山寺に向かう。

「夫を返してください」と白蛇は懸命に頼むが、法海は聞き入れようとしない。そればかりか哼・哈、監齋、哪吒などの天将を次々と繰り出し、白蛇を退治しようとする。



川劇「白蛇伝」第八場 水漫金山（1）金山寺へ(7:48)



川劇「白蛇伝」第八場 水漫金山（2）哼哈・監齋・哪吒との戦い(2:20)

川劇の特殊技法

川劇には、中国伝統演劇で広く使われる表現技法のほかに、独自に生み出された特殊技法がある。

第八場の水漫金山では、白蛇率いる水族と法海率いる天将との幻想的な戦いが、川劇独自の特殊技法を使って巧みに表現されている。



開慧眼



変臉



開慧眼

次の場面では、天将の一・護法韋
馱が登場する。
役者は**開慧眼**という特殊技法を使
い、護法韋馱の額に第三の眼（魔力
を持つ慧眼）を開く。
この眼はどのようなようにしてつけるの
か？

川劇の特殊技法(一) 開慧眼

開慧眼は川劇の「戲聖」と呼ばれる康芷林(一八七〇〜一九三〇)が創始した特殊技法。

訓練によって鍛えた柔軟な足を使ってつま先を蹴り上げ、靴の先につけた眼を額の中央に貼り付ける。



開慧眼





川劇の特殊技法(一) 開慧眼

中国伝統演劇の表現技法(八) 腿功

脚を使った表現技法を腿功といい、**踢腿**と**抬腿**の二種がある。

開慧眼に使われるのが**踢腿**。踢とは蹴る動作をいう。

写真は護法韋駄を演じた王整さんが、**抬腿**の練習をしているところ。

抬とは足を挙げる動作をいい、武芸に長じていることを表わす。





“抬腿”の練習風景(護法韋駄を演じる役者・王整さん)





川劇「白蛇伝」第八場 水漫金山（3）護法韋馱との戦い(2:54)





川劇「白蛇伝」第八場 水漫金山 (4) 青龍禪杖との戦い (5:39)



中国伝統演劇の表現技法(九) 毯子功
各種のアクロバットの表現技法を
毯子功という。
毯子とは、舞台の上に敷かれた絨
毯のこと。毯子功は単なるアクロ
バットではなく、物語の展開と音楽
にあわせて演じられる。





“毯子功”の練習風景





川劇「白蛇伝」第八場 水漫金山(五)

白蛇は、法海が繰り出す天将たちの執拗な攻撃に耐えかね、ついに金山の水攻めを決意する。

白蛇率いる水族と法海率いる天将との間で、熾烈な戦いが始まる。





川劇「白蛇伝」第八場（5）水漫金山（4:00）

歌舞伎の隈取



筋隈

管丞相(菅原道真)に仕える
忠義の臣、梅王丸の隈取
(「菅原伝授手習鑑」より)



公家荒れ

帝位篡奪をもくろむ奸
臣・藤原時平の隈取(「菅原
伝授手習鑑」より)





京劇の臉譜



紅臉

三国志演義の中で忠義の象徴として描かれる関羽の臉譜(京劇「華容道」より)



白臉

漢王朝の帝位篡奪をもくろむ奸臣・曹操の臉譜(京劇「長坂坡」より)



中国の臉譜はいつごろから使われ
ているのか？





元雜劇壁画(山西省洪洞县明忘王殿 泰定元年(1324年))



元雜劇壁画(山西省洪洞县明志王殿 泰定元年(1324年))

川劇の特殊技法(二) 変臉

変臉には抹彩、拉綫、氣功の三種がある。

「水漫金山」で紫金鏡鉢を持って現れる鉢童が使うのが拉綫。臉譜を描いた絹布に引き糸をつけ、顔の上に重ね貼りし、それを音楽に合わせて一枚ずつ剥ぎ取ることにより、喜怒哀楽の感情の変化を表現する。





川劇の特殊技法の一“変臉”

川劇「白蛇伝」第八場 水漫金山(六)

法海は妖魔を捕らえる魔力を持つ紫金鏡鉢を持つ鉢童を呼び出す。鉢童は喜怒哀楽の表情を変えながら、白蛇に襲いかかる。

最後の力を振り絞り、懸命に戦った白蛇だったが、身重のため、ついに力尽き、長江の中へと姿を消していく。





川劇「白蛇伝」第八場（6）紫金鏡鈸（7:09）

まとめ

今回の授業では、川劇「白蛇伝」の第五場後半から第八場までを鑑賞しながら、中国伝統演劇の表現技法である**假嗓**、**水袖功**、**水旗**、**毯子功**を学んだ後、川劇独自の特殊技法である**開慧眼**、**変臉**について学んだ。

開慧眼は、人間の身体能力を極限まで極めた技法であり、**変臉**は物語の展開にあわせて顔の隈取を変化させることにより、登場人物の感情の変化を幻想的に表現している。

中国の伝統演劇は、こうしたさまざまな表現技法により、役者の身体表現を最大限に活かし、「**有声必歌**、**無動不舞**」（声あれば必ず歌い、舞わざる動きなし）と評される舞台を作り出しているのである。